

東洋紡株式会社 2021 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2021 年 11 月 9 日（火） 11:00～12:00

場所：WEB 形式

説明者：代表取締役社長 竹内 郁夫

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：通期の営業利益見通しは、290 億円に据え置き。上期に対し下期は、52 億円の減益見通しとなる。

下期の見通しを高くしなかった理由は？

A：原燃料価格の高騰、自動車生産の減少など、事業への影響が不透明な要素が多く、下期の見通しを慎重にみた。

Q：次期中計の利益成長のイメージは？

A：中長期的には、フィルムなど重点分野での拡大投資が増える一方、事業インフラなど多くの工場で老朽化更新が必要であり、投資規模が大きくなる。利益の目標については現在検討中だが、設備投資増により償却負担が増えるため、2025 年度までは、EBITDA は成長するが、営業利益が一気に増える計画にはならないとみている。

Q：液晶パネルメーカーは、21 年 7～9 月に在庫調整にあったとの情報があるが、SRF は約 25%増収とのこと。その理由は？ 下期に在庫調整を受けることはあるか？

A：ポリエステル goodness（水分を吸わないため、取り扱い性に優れる）が認知され、マーケットシェアが大きくなったため。下期は、偏光板メーカーの在庫調整の影響を受ける懸念あり。

Q：SRF の取引先（偏光板メーカー）に、拡がりが増えてきたか？

A：従来、採用が伸びていなかったお客さまに対し、弊社の供給体制が整ったことにより拡販を進めている。

Q：セラコンメーカーが在庫を溜める動きがある、との情報があるが、下期の見通しは？

A：昨年秋に一時的に生産調整があったが、現在は、在庫調整情報はない。下期は上期並みの見通し。

Q：フィルム・機能材料が、上期に対し下期の見通しが減益の理由は？

A：原料高、海外物流コスト、原料のフォースマジュールなど、不安定要素があり、下期減益の懸念あり。

Q：タイに設立するエアバッグ用基布の新工場の立上時期は？

A：新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で工事が遅れており、22 年春に稼働予定。認証取得を進め、23 年初頭に商業生産を予定。

Q : PCR 検査試薬は、上期は堅調とのこと。下期の予想は？

A : 新型コロナウイルス感染症の感染が収束傾向にあり、上期に対し、下期の売上高は減少する見通し。

Q : ライフサイエンス事業の上期の利益増加の内訳は？

A : PCR 検査用試薬の増分が大きい。

以上